

02.回想・ひと月前～そもそものはじまり～

〔森でお姉ちゃんに魔法のお稽古をしてもらいながら…〕

〔バシユン！と魔法を放つ音〕

…やったあ！

風魔法、成功だよお！

よかったねえ、頑張ったねえ…！

あなたの家庭教師になってよかったあ…。

はあ…あなたってほ～んと、ちっちゃくって、やわらかくって、かわいいねえ…♡

ほっぺもぷにぷにだし…えへへ。

お姉ちゃんあなたのこと、だ～いすき。

んう～…♡

…？

ぼくも、お姉ちゃんのが、すき…？

う～～ん…。

はむっ。ん～…♡

あなたのお耳、ひんやりしてきもちいい～♡

くすくす…ありがと～。

だけどあんまりからかうと～、

ドラゴンのお姉ちゃんに食べられちゃうぞ～？

あはははは…。

〔おなかがごろごろと鳴る〕

あ…ご、ごめんね。

お姉ちゃん、ちょっとおなか空いちゃった～。

えっと…お、お弁当とってくるから。

ちょっとここで、待って、て……

か、隠れて！

〔低い唸り声とともに魔物が現れる〕

し～っ…声を出しちゃだめ…！

あ、あれ…魔物だよお…！

うう…こ、こっちにはまだ、気づいてないみたい…。

どうしよう…えっと、えっとお…。

…あ、あそこのトイレ！

あの中に隠れよう。

足音を立てないように～、そ～っと、そ～～っとお…。

〔場面変わってトイレの中〕

はあ、はあ、はあ…。

はあ～…こ、怖かったあ…。

うう…なんでこんなところにいるんだろう…。

普段このあたりに、魔物なんていないのに…。

もし見つかったら、わたしたち食べられちゃうよお…。

〔ぎゅるぎゅるとおなかの鳴る〕

ふぐっ…う…！

…う、ううん！なんでもないの…。

そんなことより、わたしから離れないで…。

いざとなったら、お姉ちゃんが守ってあげるから…！

〔魔物がトイレに入ってくる〕

うひっ…！？

ふ〜…ふ〜…ふ〜…。

（押し殺した吐息）

こ、声を出しちゃだめ…！

〔足音が近づいてくる…〕

ふ〜…ふ〜…ふ〜…！

〔魔物の足音が去っていく…〕

…はあ〜…。

〔おなかが大きな音をたてる〕

んぐっ…う…！？

あっ…！

〔音を聞きつけて魔物が近づいてくる…〕

ふ〜…ふ〜…ふ〜…！

（押し殺した吐息）

っ…く…！

（んぐ、ぐるじい〜〜…！

だめ…だめ、だめ、だめえ…！

お願い…おさまってえ〜！神様あ〜…！）

…！

〔外で大きな音がする。新たなエモノを見つけて魔物は去っていく…〕

…た、たすかっ…た…？

…はああ〜…こ…怖かったあ…。

〔便意が限界に達する〕

ふんぐっ…！？

あ…だ、だめ…もう、出ちゃ…！

お願い…お耳、ふさいでえっ…！

〔猛烈な勢いでトイレに排便する〕

ひうっ…！

あ…ああ…あはあっ！

はあ、はあ、はあ…。

ひぐっ…！？

〔第二波〕

ふううっ…ん…んん…！

うぐっ…！？

〔第三波〕

ふん〜〜っ…ぐ…！

んはっ…！

ぜ〜は〜…ぜ〜は〜…ぜ〜は〜…。

はあ〜…♡

…はっ！？

あ…あわわわわ…！

ご、ごごごめんねっ…！？

く、くさいよね…いやだよね…！？

お、お姉ちゃんその…お手洗い我慢してて…。

だ、だけど魔物がいて、できなくてえ…。

…い、いつもこんなにするわけじゃないんだよ…！？

…？

おなかのところ、かたいのが…。

…！

あ、あなたのそれ…どうしたの…？

…う、ううん！

...謝らないで...。
えっと、その...。
お姉ちゃんこういうのって、
あんまり詳しくないんだけど...。
それって、男の子のやつ...だよな？
あなたって、その...
『こういうの』が好き、なの...？

...。
...あ。
...大丈夫、泣かないで。
ほら、ぎゅ〜〜...。
よし、よし...。
そっか〜...そうだよな...。
あなただってその...『男の子』、だもんね...？
ごめんね〜。
お姉ちゃんずっと、あなたの気持ちに気づいてあげられなかったみたい。
いい子、いい子...。
えへへ、落ち着いた〜...？

[また便意がぶり返す]

う...。
あ、あのね？
お姉ちゃんその...
ヒトよりもちよっと『多い』みたいで...。
まだ、出そうなんだ。
それでね...このまま続きしても、いい？
...あ、あはは...。
それじゃあ、いくね...？
すう〜〜...

[第四波]

ふっ...ん...！
う...うぐ...っ...！
っはあ、はあ、はあ...。
ふん...くっ...ん...！
っはあ、はあ...。
んっ...んん...ん...！
っはあ、はあ、はあ...。